

第1学年〇組 道徳科 学習構想案(例)

日時 令和〇年〇月〇日(〇)〇校時

場所 1年〇組教室

指導者 〇〇 〇〇

1 学習構想

主題名	親切な心で (内容項目 B(6)親切、思いやり)	
ねらいと教材	(1)ねらい 赤ちゃんぎつねを助けためぐいにゃあどんの気持ちを考えることを通して、相手のことを考えて、温かい心で接しようとする態度を育てる。 (2)教材名 「『めぐいにゃあどん』ときつね 出典:「熊本の心 小学校1・2年(熊本県教育委員会)」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	相手の立場に気付き、優しく接することについて多面的・多角的に考えている。	身の回りの人に目を向け、親切な行為をしていたか、これまでの自分の行動について振り返り、これからの自分について考えている。
目指す児童の姿		
相手の立場について考えながら、優しく接しようとする児童		
主題に迫る学習課題(本時)		本主題で働かせる見方・考え方
周りの人を笑顔にするには、どうしたらいいのかな?		親切な行為について、多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導		
日常生活	道徳科	各教科等
<p>〇縦割り班活動 1～6年生で、自己紹介やゲームをして仲良く遊ぶ。上学年の児童から教えてもらう。</p> <p>〇係活動・当番活動 欠席をしている友達の代わりに係や当番の仕事を手伝う。</p> <p>〇ボランティア活動 忘れ物をしている友達に気付いて貸したり、落とし物に気付いて拾ったりする。</p> <p>〇帰りの会 友達の頑張りや思いやりのある行為に目を向け、伝え合う。</p>	<p>「がっこうにはね……」 出典:「あたらしいどうとく1 (東京書籍)」 B(7)感謝 日頃自分たちの生活を支えてくれたり、助けてくれたりしている人々に感謝し、自分ができようとする心情を育てる。</p> <p>「『めぐいにゃあどん』ときつね」 (本時) B(6)親切、思いやり 赤ちゃんぎつねを助けためぐいにゃあどんの気持ちを考えることを通して、相手のことを考えて温かい心で接しようとする態度を育てる。</p> <p>「はしのうえのおおかみ」 出典:「あたらしいどうとく1 (東京書籍)」 B(6)親切、思いやり 身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。</p>	<p>学級活動 「いるか学級のお友達」 いるか学級の児童や学習方法などを知り、違いを認め励まし合うことができる。</p> <p>生活科 「公園で遊ぼう」 公園で遊具や鬼遊びなどをする中で、譲り合ったり、誘い合ったりして親切の行為を実感することができる。</p> <p>生活科 「新1年生体験入学」 幼い友達の遊びたいことや困っていることを考えて、親切にし、仲良く遊ぶことができる。</p>

2 主題設定の理由

<p>学習指導要領における該当箇所(ねらいや指導内容についての教師の捉え方)</p> <p>本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目 B(6)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」を基にしたものである。</p> <p>この時期の児童は、学校生活にも慣れ、家族だけでなく、学校の人々、友達などとの関わりが増えてくる。思いやりや親切な行為の大切さを分かっている反面、それが自己中心的な考えや行為として出現することもある。しかし、本来親切とは、自分本位ではなく、相手の立場を考え、助けたいという思いから行為として出現するものである。</p> <p>このような段階で大切なことは、周りの人に目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めることである。</p>

本主題における系統

小学校第1学年及び第2学年
内容項目 B(6)(親切, 思いやり)
身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。

小学校第3学年及び第4学年
内容項目 B(6)(親切, 思いやり)
相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。

小学校第5学年及び第6学年
内容項目 B(6)(親切, 思いやり)
誰に対しても思いやりの心を持ち, 相手の立場に立って親切にすること。

児童の実態(児童の学習状況や実態と教師の願い)

本学級の児童数(名)

■主題に関する意識の状況

(1)周りの人に親切にされたことはありますか。

(2)その時, どんな気持ちでしたか。

(3)周りの人に親切にしたことはありますか。

(4)周りの人とは, 誰ですか。

(5)どんな親切ですか。

(6)お店の中で, ハンカチを落とした人が気づかずに行ってしまいました。どうしますか。

(7)その理由。

(拾わない理由)

(拾う理由)

項目のみ記載しています。

■考察

教材の価値(使用する教材の特質や具体的な活用方法)

教材「『めぐいにゃあどん』ときつね」は, 塩や魚を売り歩いていためぐいにゃあどんが, 崖で何かをつかもうとしているきつねに会う。最初は, だまされたら大変だと急いで通り過ぎようとしためぐいにゃあどんだが, 命の危険にある赤ちゃんぎつねに気付き, 自分の身の危険を顧みず赤ちゃんぎつねを引き上げ, 親ぎつねに返す話である。

本教材を活用した授業においては, 赤ちゃんぎつねを助けられずに困っている親ぎつねに気付いた主人公めぐいにゃあどんの行動を中心発問として考えることを通して児童の多様な価値観を引き出す。多様な価値観に触れ, 相手のことを考え, 優しく接することの大切さについて考えを深め, 相手の立場に立った親切な行為をしようとする児童の態度を育てていきたい。

3 指導に当たっての留意点

【導入・終末の工夫】(学習過程の工夫)

- 授業の導入場面では, 親切についての意識調査の結果を提示し, 親切にされたら嬉しい気持ちになることを理解しているながらも, 相手を目の前にするとなかなか親切な行動に移せない事実を知り, 児童が本時の主題に関わる問題意識をもてるようにしたい。その上で教材に出合わせたい。
- 授業の終末では, 児童が親切にしている写真をスライドショーにして提示することで, 相手の立場を考えて親切にすることの大切さやその後の自分の心地よさを感じ, 今後の生活における実践意欲へとつなげていきたい。

【発問の工夫】(指導方法の工夫)

- 学習テーマを「周りの人を笑顔にするには, どうしたらいいのかな?」とし, 目の前の困っている状況に気付き, 相手に親切にした登場人物の思いに着目し, 中心発問を設定したい。
- 中心発問で「めぐいにゃあどんは, 赤ちゃんぎつねを助け, 親ぎつねに「こんこん。こんこん。」(ありがとう。)と言われた時, どんなことを思ったかな?」と問い, 自分の考えをもった後, 交流を行う。全体での話し合いを通して, 周りの人を笑顔にするには, どうしたらいいのか, 今日の学習で大切だと思ったことの納得解を見出していきたい。

4 本時の学習

(1) ねらい 赤ちゃんぎつねを助けためごいにゃあどんの気持ちを考えることを通して、相手のことを考えて、温かい心で接しようとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◎主発問 ○その他の発問 ◇指示・予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習課題(テーマ)を知る。 ◇みんなは、周りの人から親切にしてもらって笑顔にもらっていますね。でも、みんなは、周りの人を笑顔にしているかな？</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【学習課題(テーマ)】周りの人を笑顔にするには、どうしたらいいのかな？</p>	<p>○親切についてのアンケートの結果から、困っている時に親切にされたら嬉しく笑顔になることを理解していながらも、困っている人を目の前にするとなかなか親切な行動に移せない事実 に焦点を当て、本時の学習課題につなげる。</p>
展開	30分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。 (1)感想を交流する。 ◇心に残っていることを教えてください。 ・だまされるかもと思っていたのに、ぎつねを助けたのがすごい。 ・赤ちゃんぎつねがけがをしなくてよかった。 (2)「めごいにゃあどん」や親ぎつねの思いについて考える。 ○峠でぎつねを見た時、めごいにゃあどんは、どんなことを思ったでしょう。 ・だまされたら、嫌だな。 ・怖いなあ。 ・何をやっているのかな。 ○「こんこん。こんこん。」と鳴いている親ぎつねは、何と言いたかったのでしょうか。 ・赤ちゃんを助けてくれてありがとう。 ・親切にしてくれてありがとう。 ・怖かったのに、がんばってくれてありがとう。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【中心発問】 ◎めごいにゃあどんは、赤ちゃんぎつねを助け、親ぎつねに「こんこん。こんこん。」(ありがとう。)と言われた時、どんなことを思ったかな。 ・通り過ぎようと思ったけど、助けてよかった。 ・親ぎつねが喜んでくれてよかった。 ・赤ちゃんぎつねがけがをしなくてよかった。 ・ぎつねは、悪いぎつねじゃなかった。 ○よく知らない、悪さをするかもしれないぎつねに親切にしてよかったかな。 ・困っているのに知らんぷりをしたら、親ぎつねがかわいそうだから。 ・そのまま助けなかったら、赤ちゃんぎつねがけがをしたかもしれないから。 ・悪さをされてもいないのに、助けなかったら自分がいつまでも、もやとして気になるから。 ・親ぎつねが、心配しているのにほっとけないから。 (3)「めごいにゃあどん」の行動から今日のテーマについて交流する。 ○周りの人を笑顔にするには、どうしたらいいのかな？ ・迷っても、相手が困っていたら、助けることが大切。</p>	<p>○話の内容を理解させるために、心に残ったことを発表させる。 ・急いでその場を通り過ぎようとした思い。 ・親ぎつねが、赤ちゃんぎつねを助けられずに困っていること。</p> <p>○めごいにゃあどんが、ぎつねを避けて通り過ぎようとした気持ちを想像し、自分のこととして考えられるようにしたい。(人間理解)</p> <p>○めごいにゃあどんと親ぎつねの役での役割演技を通し、崖っぷちで赤ちゃんぎつねを助けられず困っている親ぎつねの様子をとらえやすくし、めごいにゃあどんに助けてもらった喜びを押さえ、主発問につなげていく。</p> <p>○交流の前に自分の考えをもつ時間を十分に確保する。(自己決定)全体交流でたくさんの児童が自分の考えを伝え合えるようにペアで伝え合う場を設定する。 ○自分と友だちの考えを比較し、意見をつないで発表していくようにする。(共感的人間関係) ○多面的、多角的に考えられるように児童の発言内容を受けて、価値観ごとに分けて板書を整理していく。(自分の喜び・相手の喜び・生命尊重・公正公平) ○自分中心の考え方をしてしまうことや相手の立場を考えて親切な行為をする大切さに気付かせたい。</p> <p>○親切とは、自分本位ではなく、相手のことを考えた行為であることに気付かせたい。</p>
終末	10分	<p>3 自分自身をふり返る。 (1)これまでの自分をふり返り、これからの自分について考える。 ○周りの人にやさしくし、笑顔にしていたか？これからは、どうしていきたいですか？ (2)1年○組の親切な人を紹介する。 ◇1年○組にも、たくさんの親切を見つけました。紹介しますね。</p>	<p>○大変そうなことや困っていそうなことの視点をあげ、振り返りをするようにする。(自己存在感)</p> <p>○子供たちの行動から、転入生に親切にしている様子等親切にしている場面を紹介し、これからは親切にしたいという態度へとつなげていく。</p>

【評価の視点1】相手の立場に気付き、優しく接することについて多面的・多角的に考えている。(方法:発言・ワークシート)
【評価の視点2】身の回りの人に目を向け、親切な行為をしていたか、これまでの自分の行動について振り返り、これからの自分について考えている。(方法:発言・ワークシート)

【板書計画】

みつめよう

まなび

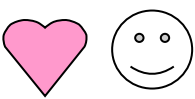
10/19 「めぐいにやあどん」ときつね

たすけて
よかった。

たすけて
くれて、
ありがとう。

届かない
絵

おやぎつねが、
よろこんで
くれてよかった。



やさしく

しんせつに
してくれて、
ありがとう。

めぐいにやあ
どんの絵

きつねの絵

たすける

ありがとう

こまっている

きつねは、
わるいきつね
じゃなかった。

あかちゃん
ぎつねが、
けがをしなくて
よかった。

こわかったのに、
がんばってくれて
ありがとう。

だまされたら、
いやだなあ。
こわいなあ。
なにをしている
のかな。

籠を
担いだ絵

めぐいにやあどん

てえま

まわりのひとをえがおにするには、どうしたらいいのかな？

きつねをみたとき

アンケートの結果

アンケートの結果

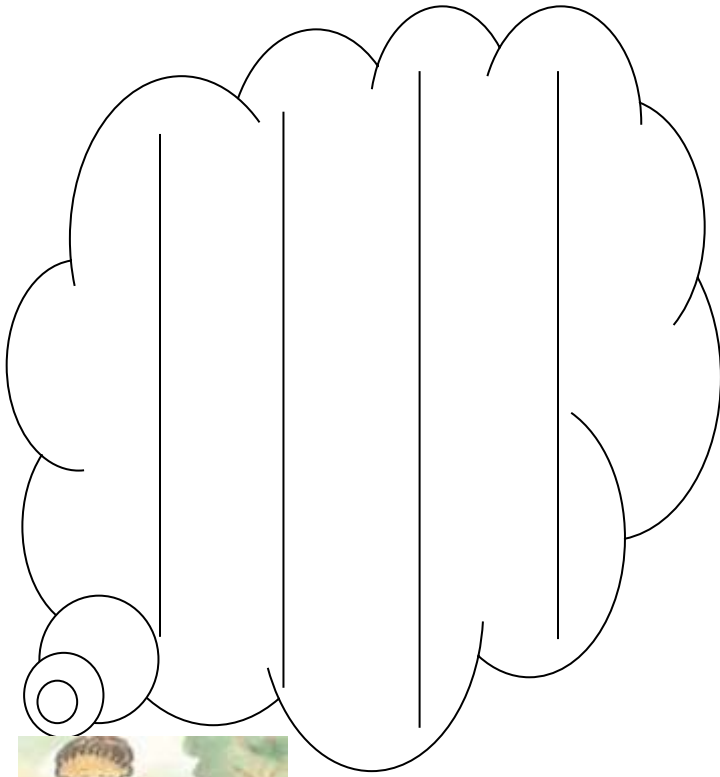
【ICT活用計画】

- 展開場面（プロジェクター、テレビ）
教材『「めぐいにやあどん」ときつね』の内容理解のため、場面ごとのキーワードを示しながら、教材を読む。
- 終末場面（プロジェクター、テレビ）
学校生活の中で、困っていそうな、大変そうな友達に気付き、行動に移していた場面の写真を提示し、自分たちの中にある親切な心に気付かせ、これからも、それをモデルとして実践していきたいという意欲へとつなげる。

「めづいにやあどん」ときつね

まわりのひとを えがおにするには、
どうしたらいいのかかな？

めづいにやあどんは、おやぎつねに「ありがとう。」と
いわれたとき、どんなことを おもったかな。



■ がくしゅうの ふりかえり *あてはまる ☺に いろを ぬりましょう。

よく かんがえた。



たのしく できた。



■ これまで まわりのひとに やさしくし、えがおにしてい
ましたか？ これからは、どうして いきたいですか？

まなび

がつ

にち

くみ

ばん

なまえ

授業づくりステップシート

内容項目 (道徳的価値)

内容項目、道徳的価値を学習指導要領解説で確認

①内容項目 B 主として人との関わりに関すること
6 親切、思いやり

②道徳的価値

身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること

児童生徒 の実態

① 道徳的価値に関する児童生徒の実態は？（指導の要点を参考に）

周りの人に親切にしたり、親切にされたりして、温かい気持ちになった経験がある児童が多い。しかし、周りの人が親切にしてくれていることに気付かない児童や様々な人との関わりの中でも、相手の立場を考えると、相手にまで考えが及ばない児童もいる。

② この授業でこんなことを考えてほしい、こんなことに気付いてほしい
周りの人に目を向け、相手のことを考え、優しく接することの大切さについて考えを深め、相手の立場に立った親切な行為が相手を笑顔にし、自分も笑顔になることに気付いてほしい。

教材を吟味

- ・考えさせたいところに線を引ながら
- ・どのように活用し、どのような学習を行うのか考えながら

ねらい

（赤ちゃんぎつねを助けためぐいにやあどんの気持ちを考えること）
学習（活動）を通して、
（相手のことを考えて温かい心で接しようとする）
判断力・心情・実践意欲・**態度**を育てる。

教材の 活用

中心的な発問

めぐいにやあどんは、赤ちゃんぎつねを助け、親ぎつねに「こんこん。こんこん。」（ありがとう。）と言われた時、どんなことを思ったかな。